

会 議 録

会 議 名	平成30年度第2回野田市水道事業運営審議会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について(諮問)(公開)
日 時	平成30年11月16日(金) 午後1時30分から午後3時20分まで
場 所	野田市水道部2階大会議室
出席委員氏名	会 長 谷田貝多吉 副会長 永田和子 委 員 五百川和家恵、織原たか代、澤田美治、澤田好子、 中村文江、横川しげ子、國嶋紀孝、根本嘉生、小川 友子、野口茂
欠席委員氏名	委 員 中村伸也、杉戸一寿
事 務 局	鈴木 有 市長 斉藤弘美 水道事業管理者 荘司晃章 次長(兼)工務課長 赤石俊介 業務課長 飯塚一雄 工務課主幹(兼)工務課長補佐(兼)浄水係長 葛西真理子 業務課長補佐(兼)財務係長 木塚幸雄 工務課長補佐(兼)工務係長 酒井礼将 業務課庶務係長 西澤 央 業務課業務係長 岡田一裕 工務課給水係長 千葉健一 工務課主査 青木宏茂 工務課主査 木村 淳 工務課主査 岡野正和 業務課主任主事 横島敬典 業務課主事
傍 聴 者	無し

議 事	平成30年度第2回野田市水道事業運営審議会の会議結果 (概要) は次のとおりである。
司会 岡野正和	定刻どおり、午後 1 時 30 分開会 会議の成立(委員 14 人中 12 人の出席)、傍聴者の申出がないこと及び会議録作成のため録音機を使用することを報告し、会議の公開について説明する。
会長 谷田貝多吉	<挨拶>
市長 鈴木 有	<挨拶>
市長 鈴木 有 事務局	諮問書を読み上げ、市長から会長へ手交する。 諮問書の写しを委員に配布する。
会長 谷田貝多吉	諮問を受け、慎重かつ活発に審議を進める旨の発言をする。 また、市長が別の公務のため退席することを知らせる。
会長 谷田貝多吉	本日の会議録の議事録署名人として、横川しげ子委員、小川友子委員の 2 名を指名する。 議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について
会長 谷田貝多吉	議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について、説明を求める。意見・質問については、配布資料の 1 ページから 32 ページまでの説明後に、次に 33 ページから 36 ページの説明後に、最後に 37 ページから 40 ページの説明後とする。
業務課長 赤石俊介	野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定につ

	いて、配布資料に基づき、1 ページから 32 ページまで説明する。
会長 谷田貝多吉	議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について、資料 1 ページから 32 ページまでの説明に対し、質問・意見等を伺う。
委員 澤田 美治	32 ページの(14)野田市水道料金の推移のなかで、給水人口一人当たりの配水管延長比較で施設と水道料金の関係性について、詳しい説明を求める。
水道事業管理者 齊藤 弘美	給水人口一人当たりの配水管延長が長くなれば、費用が掛かる。水道料金で賄うのが水道事業の原則ではあるが、水道料金に直接跳ね返ってしまうということはある。施設についても同じである。野田市は南北に長い地形であり、1 つの浄水場あるいは配水場から末端へ水を送るためには、圧力不足が生じるため、途中で加圧する施設を作らなければならない。地域性もある。例えば野田市と我孫子市の人口密度を比較しても野田市は半分以下である。人があまり住んでいなくても施設や設備が必要になるという状況があるので、水道料金そのものに地域性が持つ施設維持費が掛かる。 ただし、水道料金を簡単に上げるということは考えるべきではなく、今までの拡張型の整備から維持管理型にそれから需要主導型の水管理からリスク管理型の水管理に変えていくことや限られた財源のなかで経費節減をしながらサービス向上を進めて行きたいと考えている。
委員 根本 嘉生	長期計画の見直しは、今まであったもので経営戦略は今回、新規で作るものということか。
水道事業管理者 齊藤 弘美	長期計画は、今まであったもので、時代の変化等に伴い見直しを行っていく。経営戦略は新しいもので、中期計画である。

委員 根本 嘉生	経営面に重点を置き、施策を実現するためのものである。財政計画の規模の大きいものと理解していただきたい。 今後の議論になると思うが、施設更新の重要度が高まっていくなかで、収支を勘案すると本来行うべき更新がやりきれなくて、先送りするのか更新するならば水道料金を上げるかということになるのか。
水道事業管理者 齊藤 弘美	単純に現行料金で更新を行っていくと資金ショートする。したがって更新が先送りになる。これから議論していただくが、料金を上げるというのも一つの選択肢であるし、料金を据え置いたままで行くか、どちらを選択しても今後の更新スピードをどうしていくかということになる。今までの水道部では料金を現状のままで行くという前提で経営をしてきたので、更新スピードは、その時の財政状況を見ながらコントロールして経営バランスを保つという方法を行ってきた。 もう一つは、法定耐用年数で更新するのではなく、どこまで使用できるかを見極めた使用可能年数で平準化を図る方法を行ってきたので、今後もこの考え方を踏襲していけば、料金は現状のままで行けるか、仮に料金を上げるとしても軽微な金額で済むのではないかと考えている。ただし、詳細な詰めは行っていない。今後、議論を行っていくなかで答えを導きだしたい。
委員 小川 友子 水道事業管理者 齊藤 弘美	19 ページの(9)－1 耐震化の状況について、上花輪浄水場の耐震化状況が非耐震と判定されたことについて、詳しい説明を求める。 上花輪浄水場は、昭和40年当時の基準で作った施設であり、耐震性がない。耐震化をすることが必須であるが、今の老朽度合を考えると耐震化するよりも建て替えた方がより効果的である。現在は高度浄水処理施設ではなく活性炭による浄水

	処理施設になっているので、今後建て替える場合には、高度浄水処理施設となり建設費用も高くなる。 また、取水する水利権が約 10,000 立方メートルで、1 t 当たりの浄水単価が高くなるので、水道料金も高くなる。 今後、使用に耐え難くなった時点で、廃止又は休止にする。なぜ、廃止又は休止かという点、廃止は全部撤去しなければならず、残存しているとその分が会計上除却費となり、一時的に赤字になる可能性がある。そのため、状況を勘案しながら廃止又は休止のいずれか有利な方を選択する。 いずれにしても、上花輪浄水場を建て替えて存続していく考えは水道部にはない。 北千葉広域水道企業団の浄水単価が 1 t 当たり 67 円で現在購入できるので、安価な水をできるだけ多く購入して、経営を安定させて行こうと考えている。
委員 國嶋 紀孝	長期計画の見直し及び経営戦略のなかで、今後、水道料金が適正かどうかの議論をしていくのか。
水道事業管理者 齊藤 弘美	今後、施策を実施していくなかで、財源が確保できるかどうかという見方であり、先に料金単体のみ適正かどうかという議論をすると、野田市の資産からみて水道料金の算定要領では料金は高くなる。 水道部では、経営が継続的に維持できる料金が適正であるという形で議論していただきたい。
委員 澤田 美治	20 ページの配水管の耐震化率について、今後更新を必要とする管の費用が約 700 億円については、今回の諮問する議論のなかで、あるべき数字として入るのか。
水道事業管理者 齊藤 弘美	計画のなかで工事をどこまでやるか、費用をどこまで掛けるか、というのを明確に記していければと考えている。

会長 谷田貝多吉	ほかに質問・意見等がないことから、33 ページから 36 ページまでの説明を求める。
業務課長 赤石 俊介	配布資料に基づき 33 ページから 36 ページまで説明する。
会長 谷田貝 多吉	議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について、資料 33 ページから 36 ページまでの説明に対し、質問・意見等を伺う。
委員 根本 嘉生	今回の長期計画は、現在の長期計画のフォローアップということか。
業務課長 赤石 俊介	平成 24 年度作成の長期計画のフォローアップとなる。
委員 根本 嘉生	今回の長期計画についても、フォローアップを行うと思うが、実施、未実施ということだけでなく、目標数値を掲げた方が、より良くなるのではないか。
水道事業管理者 齊藤 弘美	今回の計画について、具体的な数値を示した方がいいものと、そうでないものがあると思うが、使い分けて作成していればと考えている。
会長 谷田貝 多吉	ほかに質問・意見等がないことから、37 ページから 40 ページまでの説明を求める。
業務課長補佐 葛西 真理子	配布資料に基づき 37 ページから 40 ページまで説明する。
会長 谷田貝 多吉	議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について、資料 37 ページから 40 ページまでの説明に対し、質問・意見等を伺う。

会長 谷田貝 多吉	質問・意見等がないことから、議題 1 野田市水道事業長期計画の見直し及び経営戦略の策定について、了承することについて諮る。 【異議無しのため、了承するものと決定】
会長 谷田貝 多吉	午後 3 時 20 分閉会を宣言 以上